

山形さくらんぼブランド力強化プロジェクト事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策3 「園芸大国やまがた」の実現						
	目的	ニーズの高い品種や先端技術の導入、大規模団地化などにより競争力の高い園芸産地づくりを推進し、農業者の所得向上を図る「園芸大国やまがた」を実現する						
	目標指標（R2）	園芸作物による産出額	1,300億円（R2）					
	策定時の実績	1,090億円（H26）	現状	1,203億円（H28）	主要事業 ・消費者ニーズをとらえた戦略的な園芸産地づくり ・競争力の高い園芸産地の基盤強化			
事業名	山形さくらんぼブランド力強化プロジェクト事業費		担当課・担当	園芸農業推進課				
事業開始年度	平成29年度		事業終了（予定）年度	令和元年度				
事業の目的 （目指す姿を3行程度で簡潔に）	本県果樹農業を牽引し、県内経済への波及効果の大きいさくらんぼについて、消費者ニーズを捉えた新品種のブランド化や高品質果実の安定出荷の推進、山形方式の労働力確保システムの構築、省力的な生産方式の導入による産地の基盤強化を進め、産出額の向上を図りながら、日本一であるさくらんぼ産地のさらなる飛躍を目指していく。							
事業概要 （5行程度で簡潔に）	<p>○本県さくらんぼ産地の維持・発展に向け、「山形さくらんぼブランド力強化推進協議会」を核とした「オール山形」体制で取り組んでいく。</p> <p>①オリジナル新品種「山形C12号」の高品質安定生産技術の確立とブランド化の推進</p> <p>②山形さくらんぼのブランドを支える高品質安定生産と品質を重視した厳選出荷によるブランド力の強化</p> <p>③高齢化や後継者不足に対応した労働力確保対策と省力・軽労的な新生産方式の導入による産地基盤の維持・強化</p> <p>④新興産地における地域の特色を活かした魅力ある産地形成の促進</p>							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由：オール山形体制で高品質安定生産を推進し、県産さくらんぼのブランド力強化を図るため							
予算額・決算額 （単位：千円）	費目（予算見積書のグループ名）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	「山形C12号」ブランド化プロジェクト		2,010					
	おうとうオリジナル新品種「山形C12号」の高品質安定生産技術の開発		4,783					
	山形さくらんぼのブランド力強化	1,059	1,051					
	産地構造に対応した新生産方式の検討・導入	626	667					
	将来の産地構造に対応したおうとう新樹形の栽培技術開発	2,703	2,876					
	労働力確保対策プロジェクト		912					
	最上さくらんぼブランド確立プロジェクト	323	380					
庄内さくらんぼ振興プロジェクト	288	428						
計	4,999	13,107	0	0	0			
財源内訳 （単位：千円）	国庫支出金							
	繰入金							
	その他特定財源	162	301					
	一般財源	4,837	12,806					
	計	4,999	13,107	0	0	0		
活動指標及び活動実績 （アウトプット）	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	「いいもの成らせるさくらんぼ便り」年間発行件数	活動実績	件数	10	9	-		
		当初見込み	件数	7	8	9		
成果指標及び成果実績 （アウトカム）	成果指標 （所管部局の分析）		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	さくらんぼ産出額 （オール山形体制で高品質安定生産を推進することで、産出額の向上を図る）	成果実績	億円	368	-	-	-	-
		目標値	億円	341	342	343	345	
		達成度	%	108%	-	-	-	
関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期さくらんぼ世界一プロジェクト事業 ・園芸大国やまがた推進事業 ・園芸大国やまがた産地育成支援事業 							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

本県の果樹農業は、全国第3位の産出額を誇る全国有数の果樹産地であり、県全体の農業産出額の29%を占めている。その中でもさくらんぼは、果実の生産・販売にのみならず、観光や食品産業など関連産業を含め、県内経済への波及効果の大きい重要な農産物である。

本県の顔であるさくらんぼを中心に、消費者ニーズを捉えた新品種等のブランド化に向けた戦略的な産地づくりや、省力・軽労的な生産方式等の導入、高品質安定生産技術の開発・普及による競争力の高い産地の基盤強化等にオール山形体制で取組み、果樹産出額の向上を図りながら、農業者の所得向上につながる「園芸大国やまがた」の実現に向け、取り組んでいく。

本事業目標は、本県果樹の栽培面積や就農者の推移、生産・販売状況などを踏まえて、設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・さくらんぼは、山形県の顔となる産業の1つであり、果実の生産・販売だけではなく、観光業や食品製造業等の他の産業との結びつきも広く、本県経済の原動力として大きな役割を担っており、優先度の高い事業となっている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・目標策定時(H27)のさくらんぼ産出額は337億円であり、過去5年間(H22-26)の平均についても289億円にとどまっており、オール山形での取組みの成果により、着実にステップアップしてきた。初年度目である平成29年産産出額(368億円)が令和2年目標(345億円)を上回っているものの、生産基盤が縮小傾向等であることもあり、妥当な目標設定となっている。
	目標水準は妥当か。	B	・平成30年産のさくらんぼ産出額は農林水産省から12月に公表される予定であるが、販売状況等から予測すると、過去最高であった平成29年産を上回る見込み。
	期待する成果が得られたか。	A	・園芸試験場で育成した「山形C12号」については、平成30年秋から苗木販売を開始し、「紅秀峰」の初年度目の約7倍にあたる約12,000本が植え付けされた。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・本事業の基盤となる高品質安定生産の徹底に向け、技術情報を生産現場へタイムリーに提供している。
	支出先の選定は妥当か。	A	・事業の実施にあたっては、主産地の村山・置賜地域だけではなく、新興産地である最上・庄内地域も含め取り組んでいる。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・JAグループ等農業団体、県内の市場・流通関係団体、主産地の市町等で構成する協議会のもと、役割分担をしながら取り組んでいる。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・新品種のブランド化や、高品質安定生産・厳選出荷の推進、高齢化に対応した生産技術の開発等、山形さくらんぼのブランド力強化に向けた事業に費用を支出している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	・オール山形で取り組んでいることから、事業の波及性が高く、効果的に実施できている。
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	・本事業はさくらんぼの生産振興について主に実施しており、6次産業推進課では販売促進、観光立県推進課では観光誘客促進等、役割を分担し、実施している。
の役割 妥当 分性 担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・山形の顔であるさくらんぼ産業のさらなる飛躍に向け、県が主体的に取り組んでいく必要がある。
今 改 善 の 課 題 等	<ul style="list-style-type: none"> ・新品種「山形C12号」の早期のブランド化に向けた生産対策・流通販売対策の検討及び実施 ・高齢化等に対応した軽労的な仕立て方の導入・推進 ・オール山形での高品質安定生産や厳選出荷に向けた継続した取組みの推進 		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない